

家畜衛生情報誌

『 一 支 国 』

2017. 春号



H29.4.9 牛まつり (吉岐國 津神社)



吉岐振興局農林水産部 吉岐家畜保健衛生所

〒811-5734 長崎県吉岐市芦辺町国分本村触1385-1 TEL : (0920)45-3031
E-mail : s13230@pref.nagasaki.lg.jp FAX : (0920)45-3386

県外からの導入牛はヨーネ病検査を！

ヨーネ病とは、慢性の頑固な下痢、消瘦をおこす、とても被害の大きい疾病で、ヨーネ菌の感染により引き起こされます。本菌は、発病前から糞便中に大量に排泄され、汚染された乳汁・餌・水を介して経口感染します。有効なワクチンや治療法はなく、感染牛は法により殺処分しなければなりません。

本病は感染してもすぐには発症せず、見かけ上は健康に見えるため、導入した牛が感染していることに気付かなかった場合、自分の農場に感染を広げることになります。

県外から導入された牛については、すべてヨーネ病の検査をすることになっています。県外から牛を導入する場合は、当家保まで連絡し、ヨーネ病の検査を必ず受けて下さい。



... ..

平成28年度 BSE検査成績

平成27年度から、48か月齢以上の死亡牛はBSE検査が義務付けられています。下表は、吉岐における死亡牛のBSE検査頭数（過去3年分）です。平成28年度は、89頭の死亡牛のBSE検査を実施し、全頭陰性でした。

(単位：頭)

年度 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
H28	5	4	2	11	12	2	6	4	10	6	9	18	89
H27	3	7	7	4	5	7	8	5	8	12	7	6	79
H26	10	9	10	8	4	4	6	7	9	9	9	8	93

家畜の死体は産業廃棄物であり、自己の土地であっても、その死体を埋却することは違法となりますので、適正な処理に努めてください。

期待の県有種雄牛続々誕生！

このところ、県有種雄牛の作出が順調です。

気高系では、現場後代検定成績日本一（BMS.No.10.3）の「勝乃幸」、糸桜系では、平茂晴の後継牛として期待される「茂晴23」、但馬系では牛若丸の流れを汲む「弁慶3」と、系統ごとに期待の種雄牛が整備されています。

これらの優秀な県有種雄牛は、壱岐の畜産に大いに貢献できるものと思われます。



勝乃幸(勝乃勝一金幸一神高福)



茂晴23(平茂晴一金幸一平茂勝)

「牛若丸」の
流れを汲む
新世代但馬!!

べんけい
弁慶3

●血統

北乃大福	安宮土井
たにみ	谷奥土井
牛若丸	谷奥土井
まつき	平茂勝

●生年月日 平成23年12月20日

検定成績(去勢)
BMS.No. 8.8

枝肉重量 **542.2kg**
ロース芯 **71.1cm**

黒原 5761
(B26)

長崎県肉用牛改良センター

〒859-4824 長崎県平戸市田平町小手田免19
TEL (0950) 57-1684 FAX (0950) 57-1685
<http://www.pref.nagasaki.jp/e-nourin/usi/index.html>

弁慶3(北乃大福一牛若丸一平茂勝)

宮城全共に向けて

平成29年4月18日、宮城全共に向けて第7区（総合評価群）種牛候補牛25頭の事前調査会を実施し、発育の状況や体型、資質などの確認及び飼養管理指導等を行いました。

○今後のスケジュール

壱岐地区代表牛選考会 5月17日（水）

長崎県代表牛選考会 7月 7日（金）

第11回全国和牛能力共進会

9月7日（木）～11日（月）



平成28年 精液利用ベスト10

壱岐地区での総利用本数は9,216本（対前年633本減）、このうち県有牛は6,968本（75.6%）で、前年比+7.6ポイントでした。

No.	種雄牛	所有者	利用本数	シェア (%)	前年
1	金太郎3	長崎県	2,228	22.6	↑ (2位)
2	平茂晴	長崎県	1,811	18.4	↓ (1位)
3	勝乃幸	長崎県	972	9.9	↑ (圏外)
4	百合幸	長崎県	780	7.9	↑ (圏外)
5	美国桜	鹿児島県 徳重	446	4.5	↑ (8位)
6	美津照重	家畜改良事業団	349	3.5	↓ (3位)
7	隆之国	鹿児島県 羽子田	338	3.4	↓ (5位)
8	秋山花	長崎県	255	2.6	↑ (9位)
9	安平栄	長崎県	242	2.5	↓ (6位)
10	勝乃勝	長崎県	220	2.2	↓ (7位)

※集計期間：平成28年1月1日～12月31日

ワクチン接種で異常産予防！

平成28年3月、壱岐島内で近年新たに発見された「ピートンウイルス」による牛異常産が発生しました。このウイルスはアカバネウイルスやアイノウイルスと同様、妊娠牛に感染し流産や子牛の体形異常を引き起こすと言われています。

これらのウイルスは、蚊やヌカカなどの吸血昆虫によって媒介されます。吸血昆虫の活動は、春先から徐々に活発になることから、予防のためには、4～5月頃までに牛異常産ワクチンの接種を済ませておくことが大切です。

今年度から接種される牛異常産4種混合ワクチンは、アカバネウイルス、チュウザンウイルス、アイノウイルスの他に、このピートンウイルスが追加されています。牛異常産ウイルスから大切な牛を守るために、ワクチン接種を行いましょう。



体形異常

～お世話になりました～



27年間の県職員生活の最後を吉岐で過ごせたことは、いろいろな意味で幸運でした。定年退職となりますが、吉岐をもっと知りたいので、しばらく吉岐で暮らすことにしました。今後とも、よろしくお願い致します。（藤原章生）



このたび中央家保に転出となりました。4年間、皆様の優しさに支えられ、とても充実した毎日を過ごせたことに心から感謝いたします。本当にありがとうございました。まだまだご恩返しができていないので、いつかきっと帰ってきます！（酒井芳子）



今年度で退職となり、地元である東京へと帰ることになりました。吉岐で過ごした3年間は皆様に良くしていただき、たいへんお世話になりました。また、様々なことを学ぶことができ、充実した日々を過ごすことができました。地元に戻っても、吉岐のことを精一杯宣伝して、たくさん人に吉岐を知ってもらおうと思います。（中野孝宏）

平成29年度 組織図

よろしくお願いします

衛生課



橋本哲二
(吉岐振興局副部長、所長)



転入

谷山敦
(課長)



長戸洋子
(嘱託)



衛生班



常岡純也
(係長)



転入

日高裕介
(獣医師)



新規採用

久保翔太郎
(獣医師)



上田竜生
(嘱託・獣医師)

つばやき

今年も別れと出会いの季節を迎え、一年の時の流れの速さを感じています。桜のつばみは、冬の寒さに耐え、大きく花咲こうとしています。去る人、来る人そして迎える人もこの桜のように大きく花開くことを希望します。さわやかな時々の光と風の中で……。 (は)